公共空間を活用したウォーカブル施策の効果に関する一考察

—滞在快適性に着目して—

株式会社建設技術研究所 大阪本社 都市部 ○ 松田 聡司

1．はじめに

近年、公共空間や道路空間を活用して人々の交流や滞留を促進させるウォーカブルなまちづくりが注目されている。2020 年 10 月に始まった歩行者利便増進道路制度（ほこみち制度）は、ウォーカブルなまちづくりを推進させる施策だが、取組の効果や、個人属性が空間評価に与える影響については十分な知見が得られていない。そこで、2021 年 11 月に広島県東広島市西条駅前中心市街地で実施した「東広島市街なかにぎわい創出のための社会実験」の参加者へのアンケートから、個人属性や実験での体験が、実験空間の滞在快適性に与える影響を分析し、公共空間利活用がもたらす効果について考察した。

2．社会実験の概要

社会実験は，図-1 に示す、広島県東広島市の西条駅前地区の西条中央公園およびメインストリートであるブールバールで実施した。社会実験の取組は、西条中央公園に隣接した歩道上でのパークレットの設置，公園内でのイベント開催、テラス席の設置やキッチンカーの誘致である。

3．調査概要

社会実験の実施前と実施中の状況変化を評価し，社会実験の効果や満足度，街なかのにぎわい創出に必要な機能等を調査することを目的に，国土交通省の「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」を利用した調査および当該指標を参考としたアンケート調査を社会実験参加者に実施した（表-1）.

4. 居心地調査の結果と考察

居心地調査の評価指標のうち、魅力に関する総合評価について、実験前を 1 とした実験中のスコアの増加率を表-2 に示す。なお、赤字は減少を示している。

パークレットを設置した歩道では、平日と休日いずれも全ての指標で実験中にスコアが増加しており、空間の魅力が向上したと言える。特に、「仕事をする場として使える」や「恋人と来て楽しく過ごせる」など、空間への滞留や人との交流に関する指標の増加率が大きい。ウォーカブルなまちづくりの狙いである「交流や滞留の促進」に合致する結果であり、パークレット設置は交流等の促進において非常に有効性が高い取組であることが示唆された。

テラス席の設置やキッチンカーを誘致した西条中央公園でも、ほとんどの指標でスコアが増加している。実験前の平日昼間は公園の利用者が少ないこともあり、平日の「賑わいがある」の増加率が特に大きい。テラス席やキッチン

図-1 社会実験実施箇所

表-1 調査概要

	居心地調査	アンケート調査
調査期間	（実験前） 2021/11/12(金), 13(土) （実験中） 2021/11/19(金) ～21(日) 各日 12 時～14 時頃	2021/11/19 (金) ～21 (日) 各日 12 時～18 時頃
調査手法	「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」調査要領に従い，複数名で調査	パークレット利用者および西条中央公園来訪者へのアンケート調査
調査項目	調査要領に従った項目	・個人属性 ・社会実験の参加（来訪目的、体験、満足度、滞在時間、同行者属性　等） ・空間の魅力（楽しそうな人が多いか、滞在しやすいか　等を 5 段階評価）
回収票数	—	419 名 (男性 31%、女性 68%、その他・未回答 1%)

カーが賑わい創出に有効であることが示された一方で、乳児連れでの滞在性など一部の項目ではスコアが減少しており、混雑が生じたことによる影響と考えられる。

5. アンケート調査の結果と考察

実験空間に対する評価を定量化するため、アンケート結果を基に主成分分析を実施し、分析結果より、「快適性」の主成分を定義した。

個人属性と主成分得点の平均値に着目すると、図-2に示すように20代が最も快適性を高く評価しており、年配になるほど低くなる傾向にある。

また、快適性と満足度、滞在時間の相関を分析した結果、高い快適性を感じた人ほど満足度が高い(r=0.50)結果であった。

さらに、社会実験での経験、性別、年代、同行者属性が快適性の評価に及ぼす影響を把握するため、数量化Ⅰ類分析を実施した(図-3)。「体験」に着目すると、飲食や滞留の体験が快適性に正の影響を及ぼしている。快適性が高く居心地がよいため、空間に留まり飲食や会話等の滞留が発生したと考えられる。一方で、「性別」に着目すると、快適性の感じ方への影響はほとんどない。「年代」に着目すると、年配になるほど負の影響を及ぼす傾向にあり、十分な休憩スペースが確保出来なかったことが要因として挙げられる。「同行者属性」に着目すると一人やその他が多く、カップルのスコアが著しく低い。賑わいが創出されていた一方で、落ち着いた雰囲気が喪失されたことが要因として考えられる。

6. おわりに

本研究では、東広島市で実施した公共空間を活用した賑わい創出の社会実験において、空間の居心地や快適性に関する調査を分析した。得られた知見は以下の通りである。

・居心地調査では、実験前と比較しスコアが増加し、滞留や交流に関する項目の増加率が大きい。

・主成分分析で定義した快適性は実験の満足度と相関があり、若年層ほど快適性の評価が高くなる傾向があった。

・飲食や滞留を体験した人ほど快適性が高い傾向がみられた。また、快適性の評価は年代による影響が大きい。

以上より、本研究では、快適性に着目し、社会実験への評価、個人属性や体験との関係を分析したが、傾向に着目した分析結果であるため、快適性を生む要因についてはその構造や因果関係を分析する必要がある。また、ウォーカブルなまちづくりの目的は快適性のみではないため、多角的な視点で取組を推進することが重要である。

表-2 魅力に関する総合評価のスコア増加率

スコア増加率	パークレット		西条中央公園	
	平日	休日	平日	休日
居心地が良い	1.56	1.00	1.00	1.03
賑わいがある	1.40	1.30	**2.50**	1.03
独特の雰囲気がある	1.38	1.75	1.27	**1.86**
家族と来て楽しく過ごせる	1.50	1.08	1.33	1.00
赤ちゃんを連れていても快適に過ごせる	1.30	1.00	1.23	**0.97**
仕事をする場として使える	1.67	**2.30**	1.29	1.11
友達と来て楽しく過ごせる	**2.20**	1.30	1.50	**0.93**
恋人と来て楽しく過ごせる	**2.40**	1.25	1.20	1.17
歩きたくなる	1.63	1.13	1.15	1.35
滞在したい	**1.86**	1.35	1.25	1.00
人との新しい出会いがありそう	**2.17**	1.50	1.56	1.27
また来たい	1.63	1.25	1.30	1.13
平均点	1.67	1.26	1.32	1.11

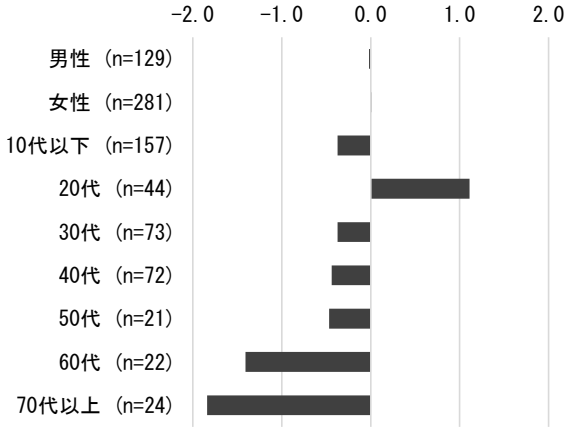

図-2 個人属性別の主成分得点の平均値

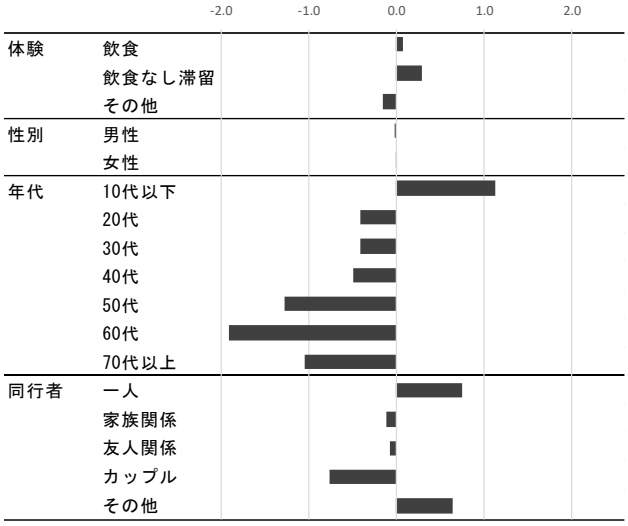

図-3 数量化Ⅰ類分析カテゴリースコア